

松岡コレクション

# めぐりあうものたち



橋本雅邦《諸葛亮読書図》 前期展示:4月26日(火)~6月5日(日)

企画展1

ふたいろ 二色の美

企画展2

ふるたず 故きを温ねて

特別展示

中国青銅器 形と用途

Vol.1

2022年

4月26日(火) ▶ 7月24日(日)

開館時間 — 10:00~17:00(入館は16:30まで) 第1金曜日/10:00~19:00(入館は18:30まで)

休館日 — 毎週月曜日(祝日の場合は翌平日)

観覧料 — 一般1,200円/25歳以下500円(10名以上の団体は各100円引)

高校生以下、障がい者手帳をお持ちの方 無料



白地黒掻落牡丹文瓶 北宋 磁州窯



史頌匱 西周時代晚期

松岡美術館  
Matsuoka Museum of Art

創設者 松岡清次郎は自らオークションや公募展に出向き、琴線にふれる作品とのめぐりあいを積み重ね、約2400点のコレクションを蒐集しました。また、清次郎が愛した芸術も様々な人やモノ同士のめぐりあいの上に成り立っています。今回は館蔵の中国陶磁、中国絵画、日本画、西洋画、能面などのコレクションを再構成し、3会期連続で「出会い」をテーマにした企画展を開催します。そのVol.1となる本展では、「二色の美」「故きを温ねて」「中国青銅器 形と用途」を開催。2トーンカラーの中国陶磁、故事に由来する日本画、形と用途に着目して中国青銅器をご紹介します。作品との出会い、また作品に内包された様々な出会いをお楽しみください。

企画展1

ふたいろ  
二色の美

私たちは様々な色に囲まれて生活を送っています。その色の多くは、理想の美を求めた人類が自然物から取り出した、あるいは自然物を素材に研究を重ねた末に生み出してきたものです。本展では色彩をテーマに、館蔵の中国陶磁コレクションから、掻き落としや黒花、青花、釉裏紅といった磁州窯系と景德鎮窯の作品を中心に、コントラストが美しい2トーンカラーのうつわをご紹介します。器面を舞台に、二色の織り成す美しさをご堪能ください。



1



2



3



4

1. 青花魚藻文大盤 元 景德鎮窯
2. 黄地青花栀子文盤 明 「正徳年製」銘 景德鎮窯
3. 黄地緑彩龍文鉢 「大清康熙年製」銘 景德鎮窯
4. 火焰青管耳方瓶 「大清乾隆年製」銘 景德鎮窯

企画展2

ふる たず  
故きを温ねて

諸葛孔明や後白河院のように永く語り継がれてきた人物や、吉事を予見させる縁起の良いモチーフは、古くから私たちの生活に浸透し、絵画の領域でも画家たちの発想の源となって多くの作品が生まれました。本展では歴史人物のエピソードや画面に込められた人々の願いをご紹介します。時空を超えて親しまれてきたこれらのテーマは今も私たちに魅了し、新たな風を吹き込むことでしょう。



1



2



3



前期展示 = 4月26日(火) ~ 6月5日(日)  
後期展示 = 6月7日(火) ~ 7月24日(日)

1. 真野満《後白河院と遊女乙前》額装 通期展示
2. 岡本秋暉《牡丹孔雀図》前期展示:4月26日(火)~6月5日(日)
3. 久隅守景《業平・定家》双幅 後期展示:6月7日(火)~7月24日(日)

特別展示 中国青銅器 形と用途

館蔵の中国古代青銅器を3会期にわたって展示する第一弾。今展では形とその用途に着目して食器や酒器に加え、水器、楽器を入門的視点でご紹介します。

- 交通案内
- 東京メトロ南北線・都営地下鉄三田線「白金台駅」1番出口から徒歩7分
  - JR「目黒駅」東口から徒歩15分
  - 都営バス「目黒駅」東口バスターミナル2番のりば  
黒77: 千駄ヶ谷駅前  
橋86: 東京タワー行・赤羽橋駅前・新橋駅前  
「東大医科研病院西門」下車 徒歩1分

常設展示

- ◎ 古代オリエント美術
- ◎ 古代ギリシア・ローマ彫刻
- ◎ ガンダーラ・インド彫刻
- ◎ ヨーロッパ近代彫刻  
(ブールデル、ハンリー、ムア、エミリオ・グレコ)



松岡美術館  
Matsuoka Museum of Art

〒108-0071 東京都港区白金台5-12-6  
TEL:03-5449-0251 FAX:03-5449-0252  
HP: <https://www.matsuoka-museum.jp/>



※会期・開館情報は状況により変更になることがあります。  
最新情報はホームページ、ツイッターをご覧ください。